

県きこL研ニュース

岩手県きこえ・ことば・LD等教育研究会事務局（盛岡市立桜城小学校内）

〒020-0022 盛岡市大通 3-8-1

電話／FAX 019-624-0457 e-mail:jimukyoku@iwate-nangen.jp <http://www.iwate.nangen.jp>

令和6年度 第2回理事会の報告

9月30日（月）に、桜城小学校において第2回理事会が開かれ、事業報告や研究推進の経過報告が行われました。

報告では、事務局の活動報告や8月9日（金）10日（土）に行われた第53回全難言協全国大会沖縄大会に参加した報告がありました。教員不足や担当者の経験不足が全国的にも課題になっていました。令和9年度には、青森県で全国大会が行われることになりました。今後、東北ブロックで運営面等の協力をするようになります。

研究推進の経過報告では、各研究班や各地区の理事から、研究主題や目標・方針、研究内容等について報告がありました。講師を招いての研修をしている地区が多く、宮古地区では、11月の桜城小学校公開研究会に参加することも予定されていました。

協議では、第65回岩手県きこえ・ことば・LD等教育研究大会について話し合われました。日程は昨年度とほぼ同様になります。幼児班は、資料を作成して提出します。発表資料について、諸検査等の数値は資料に掲載せず、口頭で話すか当日配付後回収する等にすることが確認されました。発表のある地区では、分科会の運営のご協力を、発表のない地区では、受付や控室等運営のご協力をお願いします。

その他では、県親の会の「すっぴんの会」の開催について、今年度から親子研修会のある年は開催しない隔年開催になりました。



第65回岩手県きこえ・ことば・LD等教育研究大会について

◆大会主題 自分の目標に向かって主体的に学ぶ子どもをめざして
～ 自立を促す指導・支援の在り方 ～

◆期 日 令和7年1月8日（水）

◆会 場 いわて県民情報交流センター「アイーナ」8階研修室等

◆日 程

9:20 9:45 10:00 10:05

11:35 12:30

14:00 14:15

15:30

受付	開会 行事・ 表彰	休憩	講 演 90分	昼 食 休 憩	全体発表 90分	移 動	分科会 75分	連 絡
					難聴班 LD班 花北地区 両磐地区 宮古地区		分科会1（校長班） 分科会2（難聴班） 分科会3（LD班） 分科会4（花北地区） 分科会5（両磐地区） 分科会6（宮古地区） ☆幼児班実践交流	

◆内 容 開会行事、講演、全体発表、分科会

◆講 演 演 題 「多様な子どもの指導・支援～通級による指導等の活用～」

講 師 宮城学院女子大学 教育学部教育学科 教授 梅田 真理 氏

◆全体発表 花北地区、両磐地区、宮古地区、難聴班、LD班小学校、LD班中学校が今年度の研究の成果と課題を発表します。みんなで学び合いましょう。

◆分 科 会 研究班…校長班、難聴班、LD班 ※幼児班は発表ではなく実践交流をします。
地区研究会…花北、両磐・宮古
それぞれに分かれて協議し、発表内容を深め合い、助言をいただきます。

◆懇 親 会 盛岡駅近辺で、17時から2時間位の予定で、懇親会（会費4,000円）を行います。
会員同士、楽しく交流できる機会です。詳細は大会申込書をご覧ください。

*11月中旬には、研究大会の案内文書（要項及び参加申込用紙）を各教室にお送りします。
ご都合をつけ、ぜひご参加ください。校長先生方の参加もよろしくお願いいたします。

第53回全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会 全国大会 第48回九州地区難聴・言語障害教育研究会 沖縄大会

令和6年8月9日(金)10日(土)の2日間、那覇市の那覇文化芸術劇場「なはーと」で開催されました。岩手県からは、飯岡会長と事務局下村が東北ブロックの理事として、牟岐副会長が全国の副会長として参加しました。また、盛岡教育事務所の派遣事業により、見前中の今野先生、沼宮内小の大櫻先生も参加しました。

沖縄は、紫外線の強さで予想以上に暑さを痛く感じました。大会は、ペーパーレスで配付資料がなく、受付も簡素化されていました。講演は国総研の牧野泰美先生のお話でした。「子どもは殻を破らなくても、殻のまま大きくなればいい。」「子どもにとって話したい相手になっているか?」等、子どもへの寄り添い方を温かく語っていただきました。分科会も大変充実した内容でした。令和9年度は、東北ブロックの青森県での開催となり、岩手県の発表もあります。全国大会は、他県の良い所を知り、岩手の良い所に気付ける大会です。



<参加された皆さんの報告・感想です。>

八幡平市立大更小学校 指導教諭 牟岐 茂里雄 先生

『これからの難聴・言語障害教育に期待されるもの ～子どものよさを生かす支援のあり方とは～』というテーマで開催された沖縄大会。2日目の分科会は「言語発達」分科会に参加し、ことばで表現する子どもを育てるための2つの発表を聞きました。どちらも子どもの興味関心や得意分野を生かした指導実践が発表されました。また、語彙を増やし楽しく学ぶ教材の工夫が紹介され、主体的に学習を楽しむ実践が発表され、とても参考になりました。最後に阿部厚二先生の助言とレクチャーがあり、実践を交えた通級児童への思いが指導支援にどう繋がっているのかを熱く話していただきました。前日の交流会で阿部先生や牧野先生と通級指導教育への思いを語り合えた有意義な沖縄大会でした。

盛岡市立見前中学校 教諭 今野 陽子 先生

今回の研修では、「誰もが今を生きている。今の手持ちの力を存分に生かしながら、将来の“よりよく生きる”につながるためには?」という言葉が心に残りました。今いろいろうまくいなくても、知らないことがたくさんあっても、必要なことが整ってなくても、誰もが今を生きている。その今の力を正しく見取り、今をよりよく生きるためやこれから生きていくために必要な力の習得をいかに支えていくのか。様々な人たちとのつながりを大切にしながら、たくさんの視点からヒントを得ながら、目の前の生徒と一緒に考えていく存在であるための努力をこれからもしていかなければ、と改めて思いました。このような機会をいただき、大変ありがとうございました。

岩手町立沼宮内小学校 教諭 大櫻 恵一 先生

第53回全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会全国大会(沖縄)に参加させていただいた。今年度からことばの教室の担当者となり、全国の実践を学べる機会をいただけて大変嬉しかった。構音分科会に参加させていただいた。発表者の方が、音づくりの指導で「進まない勇氣、もどる潔さ」を強調されていた。子どもをしっかりとアセスメントしながら、躊躇することなくもう一度戻って、きちんと改善を図るという視点は、常に担当者として持ち続けていかなければと思った。岩手方式以外にも、全国には、いろいろな構音指導があることを学ばせていただき、視野を広げることができた。今回学んできたことを実践に生かし、子どもたちへ還元していきたい。

♡こんにちは！胆江地区研究会です♡



胆江地区は、昭和45年に県内3番目のことばの教室が姉体小学校（あの選手の母校！）に開設されたのが始まりです。現在14施設20人の会員で活動しています。学校の統合や対象児童生徒幼児のニーズの多様化など、さまざまな課題があっても明るく仲良く立ち向かっていけるのが、この地区の持ち味です。